

# 使徒の務めはキリストの天の務めと協力して、神の羊の群れとしての神の召会を牧養し、キリストのからだを建造する

- I. キリストの十字架から、彼の牧養を通して、来たるべき時代における彼の王職までを扱う(詩篇22-24):
- a. 復活と昇天における牧者としてのキリスト(23篇)は、キリストの贖いの死と彼の召会を生み出す復活(22篇)と、キリストが王として戻って来て、彼のからだとしての召会を通して全地を再び得られること(24篇)の間の架け橋である。
  - b. キリストは彼の天の務めにおいて人々を牧養しており、私たちは彼と協力して人々を牧養する必要がある。もし私たちがこの交わりを受け入れるなら、地上に大きな復興があるようになり、主の再来をもたらす。

II. ヨハネ第21章は、使徒の務めがキリストの天の務めと協力することを啓示する。ヨハネ第21章は、ヨハネによる福音書の完成と総括である:

- a. 20章までに言葉が肉体となり、肉体が命を与える霊となることを示している。
- b. これらの手順は21章の牧養のためである。牧養がなければ受肉、十字架、復活の完成と総括がない。

III. 主が良い牧者であって、彼が来たのは羊が豊かに命を持つためであること、また彼には他の羊(異邦人)もいて、彼はこれらの他の羊を導いて彼ら(ユダヤ人信者たち)と合わせて一つの群れ(一つの召会)とならせ、ひとりの牧者の下に帰させなければならない(ヨハネ10:10,11,16)。

IV. 主はペテロに、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養することを託した:

V. 使徒パウロの次の言葉も、使徒の務めがキリストの天の務めと合併することが、神の羊の群れを顧みるためであることを見せている:

- a. 「あなたがた自身と群れ全体に気をつけなさい。聖霊は彼らの間に、あなたがたを監督として立てられ、神がご自身の血を通して獲得された(あるいは、買い取られた)神の召会を牧養させるのです」(使徒20:28)。
- b. 羊の群れ、召会は彼の宝であり、また神の宝である。

VI. キリストの天の務めと合併された使徒の務めの主要な目的また目標は、キリストのからだを建造することであり、それは新エルサレムを究極的に完成する。

(挿入部分) VII. 神の永遠のエコノミーの主要な目的と究極的完成のために神の羊の群れを牧養するこの事柄は、雅歌でも言及されている:

- a. この区分は補足的な挿入であると考えられ、牧養の重要性を旧約の雅歌において確証する。それはまた、牧養において、最も重要なこと、「主イエスを最愛の夫として愛する」ことを啓示する。
- b. 「わが愛する方は私のもの。私は彼のもの。彼はゆり(単一な心で神に信頼する生活をする、キリストを追い求める者)の間で群れを牧養している」。

VIII. 信者たちを牧養することは、彼らが命において成長するために極めて重要である。私たちは牧養の道を取って、福音を宣べ伝え、召会を復興しなければならない:

- a. 私たちはこのように祈るべきである、「主よ、私は復興されたいです。今日から私は牧養する者となりたくたいです。私は行って人を養い、人を牧養し、人を群れとならせたいです」。
- b. すべての召会は、どのようにして人を共に群れとならせて、彼らが共にブレンディングされるようにすることができるかを学ばなければならない。長老と同労者たちは、率先してこの事を実行すべきである。

IX. 金の燭台を有機的に維持することは、キリストの天の務めであって、彼の人性において諸召会をはぐくみ、また彼の神性において諸召会を養って、彼の有機的な牧養を通して勝利者を生み出すことである:

- a. 彼は燭台のともし火を整えて、私たちをはぐくんでいる。彼は燭台の灯心を切り取り、すべての消極的な事柄を切り落とす。
- b. 彼は語る霊として燭台を整え、新鮮な油、すなわち、その霊の供給をもって燭台を満たす。

X. キリストのすばらしい牧養を通して、私たちは今日も、また永遠にわたって彼を私たちの祝福として享受する。